

邦光史郎

集英社文庫

歴史を

推理する

集英社文庫

歴史を推理する

邦光史郎



集英社版



集英社文庫

れきし すいり
歴史を推理する

1988年 8月25日 第1刷

定価はカバーに表示してあります。

著者 くに みつ し ろう
邦 光 史 郎

発行者 堀 内 末 男

発行所 株式 集 英 社
会社

東京都千代田区一ツ橋 2-5-10
〒101-50

(230) 6100 (編集)

電話 東京 (230) 6393 (販売)

(230) 6080 (製作)

印刷 中央精版印刷株式会社

本書の内容の一部または全部を無断複写、複製、転載することを禁じます。

落丁・乱丁の本が万一ございましたら、小社製作課宛にお送りください。
送料小社負担でお取り替えいたします。

集英社文庫

歴史を推理する

邦光史郎

目次

古事記の謎……………二

偽書説もある最古の史書 12

天地創造神話 15

黄泉の国と高天原 19

神々の悲劇―出雲神話 23

国譲り神話 28

神武東征の謎……………三五

神より人へ―天孫降臨 36

日向三代 42

戦う大王たち―神武東征 46

大和国原 55

英雄伝説―倭建 60

謎の人聖徳太子…………… 七

白馬の皇子 68

太子は天皇だったのか 75

いかるがの里 81

仏法と太子 87

太子一族の悲運 94

平家物語の虚実…………… 九

庶民の間に語りつがれてきた平家物語 100

密輸でもうけた平家一門 102

大人物平清盛 105

“日本一の大天狗” 109

泰平ならざる太平記……………二五

悪党上りの楠木正成 116

忠臣か逆臣か、尊氏の実像 123

狂気の天才―織田信長……………二三

日本史の謎、信長の異常性格 134

「すさまじき男」の若き日 136

ゴッドファーザー信長の子分光秀 142

孤独な天下人太閤秀吉……………二五

信長を手玉による器量人 152

秀吉最大の不幸 155

「浪花のことは夢のまた夢」 161

幻の美少年天草四郎……………二六

史上最大の残酷刑 “衰踊り” 168

五人のキリシタン浪人 173

慶安事変七つの謎 一八三

楠流の軍学が泣くクーデター 184

黒幕は紀伊頼宣か？ 194

お家騒動は何ゆえ起ったか 二〇三

お家騒動は外様大藩だけ 二〇四

妖女お由良の方 210

仇討ちに賭けた大石内蔵助 二一九

五万三千石を棒に振った殿様 220

一か八かの賭けに出た大石良雄 223

仕官の望みも消えて 230

暗殺集団の末路……………三三五

体制を揺るがす暗殺団の横行 236

人斬り新兵衛と以蔵 241

埋蔵金の謎……………三五一

小栗の埋蔵金、一千億円 252

八十年掘りつづける水野父子 258

明治維新のスポンサー……………三六五

大名の台所火の車 266

幕末版ドルシヨック 268

勤王商人たちの損得 272

政局をあやつる政商の胸算用 276

歴史を推理する

古事記の謎

偽書説もある最古の史書

現存する最古の書物であつて、神の時代から人間の王の時代に至る日本の成り立ちを記したものとなっているが、これが果して歴史書なのか、それとも神話文学なのかとなると、いささかきめがたい。

古事記には、この書卷を撰んで筆録した太安万侶（おのやすまろ）の序文がついていて、その末尾に和銅五年（七一二）一月二十八日に完成献上すると記されているので、養老四年（七二〇）五月に完成した官撰の歴史書『日本書紀』より八年ほど古いことになる。

この古事記以前に、聖徳太子と蘇我馬子（そがのうまこ）が共同して編んだ『天皇記』『国記』『本紀』などといった史書があったと『日本書紀』に書いてある。しかし、これらの史書は、蘇我氏滅亡の時ほとんど灰になってしまい、わずかにその一部を船史（ふねのし）恵尺（えさか）が火中より救い出したと、同じく書紀が伝えているが、書卷そのものは全く残っていない。

そこで古事記が日本最古の書物ということになるが、それなら官撰の歴史書である『日本書紀』に『古事記』のことが記録されていそうなものなのに、これが全くふれられていないというのは、一体どうしたことだろうか。

古事記は偽書なりという説があるのもこの辺のところから発したもので、現存の古事記は八世紀のものではなくて、平安朝になってから世に現われた後世の作ではあるまいかというのだ。そういうと序文は漢文体、本文は和風漢文体、歌謡は一音節一字の仮名書きというように、文体や表記法がそれぞれに違っている。そして全体を通してみると、神話あり、伝説あり、歌謡あり、神事や儀式の伝承ありとさまざまで、天地創造から神々の時代へ、さらに神から人の時代へと移っていったありさまが描かれている。だから、江戸時代の学者の中にはこれを史書ではなく神典として扱っていた人が多い。

ところで、どうして古事記が編まれたかという事情について、太安万侶が序文にこう書いている。

帝紀を撰録し、舊辭を討覈して、偽りを削り實を定めて、後葉に流へむと欲ふ。

つまり、諸家の言い伝えの乱れを正すために決定版をつくらうというのであった。ところで、臣安万侶に『帝紀』と『旧辞』の中から正確なものを撰録させたのは元明女帝であるが、稗田阿礼に暗誦を命じたのは天武天皇だった。

そこで考えられることは、後世でいう系図買いということ、これは一介の浪人者が戦国の世をうまく泳いで一国一城の主となると、さっそく系図をつくったり、先祖の話を持出して家系を飾ったりして、自己の位置を正当づけようとするのと同じで、壬申の乱に勝って王

朝の始祖となった天武天皇とその忠実な部下たちが、自分たちの正当性を書物によって証拠づけるために、自分たちに都合のよい古事記をつくったのではないかということである。

だから歴史そのままでではなく、多くの粉飾や作為が加えられているかもしれないのだ。しかし、歴史書というものは多かれ少なかれ時の権力者に都合のよい史料が集められて成立しているもので、勝者の歴史、権力者の過去帳といった側面をもっている。にもかかわらず、われわれは、そうした史書を通じてしか古代をのぞき見ることができないのである。だから、たとえ古事記が平安朝の偽書であろうと、また、天武王朝に都合のよい記述になっていようと、やはり古代の記録である点に変わりはなく、われわれは『古事記』や『日本書紀』を通じてしか日本民族の神話を知りえないのである。

『古事記』と『日本書紀』を読みくらべてみると、大筋においてはほぼ一致しているが、細かい点ではかなり違った点がみられる。そして官撰の史書という堅苦しさを特徴とする『日本書紀』と読みくらべてみると、『古事記』の方が、ずっと文学性においてすぐれている。

世界のどの民族もそれぞれに神話をもっている。われわれもまた日本民族の神話、『古事記』を残してくれた先人の労に感謝しなくてはなるまい。

古事記を今ではコジキと読んでいるが、江戸時代の国学者本居宣長は、恐らく古代人は「フルゴトブミ」と読んでいたのではなからうかといっている。